榎谷議員 おはようございます。通告してありました、出羽島の未来像と今後の取り組みについて質問いたします。出羽島の町並みを活かした、ミセをはじめ大正時代の家屋の文化を残そうと、町長をはじめ各大学の調査団なども入って調査を重ねております、修復には相当の財源が必要かと思われませんが、人口の減少や文化財指定後の財源の確保等、町長自ら奮闘しておられますが、そこで出羽島集落の今後の取り組みと未来像についてお聞きいたします。また、どういった構造を推移しておられるのか、また、何年計画での予定なのかお聞かせください。そして、昨年のアート展の成功を踏まえ、今年度も2月下旬から3月にかけて催しの計画と伺っておりますが、前回ご迷惑をかけましたトイレの解決策に合併槽の事業もはずせない状況ではないかと思えます。そこで、し尿処理バイオのデモキの設置をアート展期間限定で検討してはどうか、また、これを機に有機処理機バイオの設置もこの際、検討してはどうか。現在、館山村で設置し、大きな節約につながっているという事例もあり、佐那河内でもこの11月には設置の予定です。有機処理機、つまり生ごみ処理機を設置することにより、今後の財源の大きな軽減になり、国や県もごみ削減につながると大きな関心を寄せ、この事業には補助金も設けられているとのこと。バイオについては、数年前大手企業が参入し、失敗に終わっています。現在のバイオはそれとは全く違うもので、大きく分けてし尿処理機と生ごみ処理機、つまり生ごみはもちろん、犬、猫、鹿、その他の動物や貝等の2つに分けられます。従来のもは、サザエやアワビの貝などは、溶けてなくなりませんでした。現在注目のバイオはサザエやアワビの貝さえも溶けてなくなります。鹿等も骨まで全てなくなるとのことです。1年ないし2年で菌の入れ替えがありますが、新しい菌の経費は安く、古い菌は有機栽培の肥料に使われ無駄がありません。県の環境観光課や産業課もすでに設置場所に見学に来ています。一度、企業専門家を招いて説明会を設けるなど、また、現場見学に行ってはどうか。検討の価値はあると思いますが、町長の見解をお聞きいたします。環境問題にいち早く牟岐町が取り組むことにより、出羽島を有機処理機による、島では日本最初のモデル事業として、アートにならびスポットを当ててはどうかと思えますが、出羽島の今後の未来像と今後の取り組みについて答弁をお願いいたします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 それでは、樫谷議員のご質問にお答えいたします。出羽島の重伝建、重要伝統的建造物群の指定につきましては、島の人口が毎年4%ずつ減少を続ける現状から人口減少をとどめ、いつまでも島の生活を守るために、また、その魅力と価値を島の内外にしらしめ認識していただくためにも必要であると考えております。と申しますのも、重伝建に指定されることにより、建物の改修などにある程度の規制はかかりますが、町並みを保存するための建築工事については、大きな国や県の助成がございますし、道路を始めとした公共施設についても特別な補助整備がございます。本土も同じですが、高齢化が進行し、ご自分の家にいつまで住めるか、また、雨が漏るがどこまで改修すべきかと迷うことが多々あるかと思えます。しかしながら、重伝建に指定されることにより、設計も含め、屋根、外壁の改修工事は補助対象となり、工事もしやすくなりますし、文化財として後世に残すという大きな意味を持つことができます。牟岐町の貴重な文化財として、また、徳島県や国の貴重な文化財として島の指定エリアが後世に引き継がれていくこととなります。島民の皆様には指定に至るまで調査等で多大なご迷惑をおかけいたしますが、今後とも現在の島の生活を守るため、また、先祖が残された貴重な島の文化を後世に残すためにも指定に向け取り組んでまいりたいと考えております。そして指定後は毎年少しずつ島の整備を継続し、往時の出羽島に近づけるよう努力を続けてまいりたいと考えています。それと、アート展時の生ごみ処理機の導入の件でございますが、現在、佐那河内村において生ごみ処理機を導入されたということを聞いております。また、その導入にあたって半分が補助であるということも聞いております。処理すべき対象といたしましては、議員がおっしゃいましたように鳥獣、それから、道路なんかでこの頃たくさん獣が敷かれていますけど、そういうものの処理であるとか、それから生ごみであるとか、いろいろ処理できないものがあるということも知っております。デモ的に試験的にアート展において導入したらどうかということでございますので、検討してまいりたいと考えております。

枅富議長 木村教育次長。

木村教育次長 おはようございます。それでは、只今の町長の補足説明としま

して、出羽島の伝統的建造物群について、現状と今後の取り組みにつきまして、ご説明させていただきたいと思います。全協でも説明させていただきましたが、出羽島の歴史的な街並み、文化財として残していきたいと、また、いま住んでおられる方がこれからも住み続けていくことができるよう島を残していくことを前提に整備していく中で、この重伝建、重要伝統建造物群として文化庁よりの選定を目指していきたいと考えております。7月28日に出羽島漁村センターにおきまして、シンポジウムを開催いたしました。重伝建とは、また、町並みとかそれに付随する保存の活用等についての報告会もさせていただきました。30名ほどの方に参加をさせていただきました。保存対策の調査とのことで本年度第1回目の調査を9月4日から12日まで、先ほど町長も申しましたが、島の方々には大変ご迷惑をおかけしながら調査をさせていただきました。第2回目につきましては11月に、3回目につきましては、来年3月に予定しておりますところ。対象物件といたしまして、96軒の所有者の方に対し町内においでの方につきましては、各戸を回らせていただきまして、町外の方につきましては、文書、電話において連絡をさせていただいて家屋の調査についてお願いをさせていただいたところでございます。その結果ではございますが、5月の調査におきまして、島で住んでおられる方で、調査物件が26ございます。そのうちの調査可能というのが13軒、嫌だという方が13軒というような状況でございました。空き家関係につきましては、37軒のうち35軒が可能ですよということで、公共物件、双方合わせて56軒調査をさせていただけるということになりました。私ども職員がそれぞれ各戸を回ってまいりまして、いろいろとお話しもさせていただいたところではございますが、その中で承諾をなかなかもらえなかった、その中には、やっぱり家屋の中を生活の様子を見られるのに抵抗がある。調査の先にあるこの点検というものについて、制度がどういう方針というのが現段階では、なかなか見えてこないということもありまして、私どもとして説明をしていく中で十分にそういう説明ができなかったということが、今回問題として浮き上がってまいりました。また、空き家等になっているところには、9割以上の方につきまして協力的でありましたが、いざ伝建制度というときには再度説明をお願いしますということでございます。

た。7月の説明会におきまして、町外の所有者の方には調査には協力するけど、先ほども言いましたように伝建制度については、改めてその是非を問いたいというようなことでもございました。また、問題点といたしまして、出羽島のどのような位置付けにするか具体的なビジョンが今のところ決まっておりません。正直に所有者に対して十分な説明ができずにいるところではございます。今回議員の皆さん方にもお願いいたしまして、この重伝建にするにはどのような進め方をしていくか、今後の考え方、また、視察をお願いしたいと考えております。実際に見て、聞いて、そしてこれから選定までの状況、また、選定後の状況、重伝建になったからといって空き家が減るのかという、そういった状況もそうだと思いますし、メリット、デメリット、いろいろな面からどのように保存していくか、活用していくか、それぞれの考え方を皆さんと一緒に方向性を考えていただければと思っております。これからの予定といたしまして、できれば今年度中は調査という段階で進んでございますが、12月頃には保存の計画の素案が作成できればと考えております。作業としまして始まったばかりになります。今現在進めている調査でございますが、出羽島自体が建物の状況であるとか、神社、仏閣などの出羽島の歴史、民俗、そういった面からもいろいろと調べていくような段階でございます。来年度には住民保存会の立ち上げ、保存審議会の設置、また、保存条例の制定、それから、保存計画の策定となりまして、伝統建造物群保存地区の決定も文化庁へ重要伝統的建造物群保存地区の選定の申し出を行うとの流れとなっております。あくまで住んでいる方、家の持ち主の方がまちづくりの中心と主役になります。それぞれの方々の了解、また、議会への報告、承認を得ながら進めてまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

枅富議長 岩田住民福祉課長。

岩田住民福祉課長 榎谷議員の3点目にあります、し尿と生ごみの処理について、担当課として補足説明をさせていただきます。趣旨としては、町長の検討を重ねていくという旨の回答をしておりますので、それに近いのですが、これ

からにつきましては、先進地等の設置町村に聞くなりしての検討を重ねてまいります。以上です。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再問いたします。文化財を後世に残すという分については、町としてしっかりとしたビジョンを持って、島の方々から十分な説明と理解を得られるよう、今後も必要ではないかと思えます。もう一つの方のし尿処理機の方ですが、大きさといたしましては、畳1畳ぐらいの広さです。菌の買い替えは1万から2万円ですので、非常に安いのです。そういったこともありますので、今後も軽減に凄く役に立つのではないかと思っております。畳1畳と言いますと、そんなに大きくない場所にできますので、これから検討の余地はあると思えます。アート展に向けてさっきのデモ機のようなもの、これを設置して、少し見て、それからでも検討しても良いのではないかと思えます。今、し尿とかそういった面で年間に1,000千円以上のお金がかかっております。出羽のし尿のお金は、そういったことも考えると、これから出羽島自体の人口が少なくなっていくので、そんなに経費はかからないと思えますので、そんなに変わったものではないと思えますので、経費削減にも大きな軽減になるのではないかと思っております。アート展がありますので、これを機に前向きに、いつも1回見に行くとか、専門家の人を呼んで説明をしてもらうとかいうふうなことは考えていただきたいと思うのですが、そのところを再問いたします。よろしく申し上げます。

枅富議長 福井町長。

福井町長 出羽島の場合は、こちらと違いまして、比較的大きなものの運搬が、船を利用するしかないということがございますので、どの程度のコストが増になるのか、そういうふうな検討と設置スペースが畳1枚分でございますけども、その景観上の問題もございまして、例えば、アート展時にそれを設置するのが

いいかどうか、そういうことも含めて検討してまいりたいと、ということで、よろしくをお願いします。

枘富議長 榎谷議員。

榎谷議員 答弁、また、再問についても答弁していただきましたが、前向きに検討していただくということで、今後よろしくをお願いしたいと思います。これで私の質問を終わらせていただきます。